

令和5年第1回教育委員会定例会議事録

招集日時 令和5年1月11日（水曜日）午前9時30分開会／午前11時閉会

招集場所 加賀市民会館2階 第2会議室

教育長 島谷千春

出席委員 篠原隆一、山下裕嗣、佐野明子、新滝有紀子

会議列席者 堀川事務局長、宮永事務局長次長、平塚次長兼学校指導課長、小茂出教育庶務課長、上出生涯学習課長、出淵中央図書館長、左古教育総合支援センター所長、田中スポーツ推進課長、梶谷教育庶務課企画官、中蔵教育庶務課リーダー

令和5年第1回教育委員会定例会開会宣言

挨拶

○島谷教育長 改めまして、皆様新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。昨日、市内小中学校の始業式ということで3学期がスタートして、3学期は卒業式等々もありますので、年度末に向けて過ぎ去るだろうと思っておりますけれども、改めて皆様よろしくお願いたします。

本日は報告事項が2件となります。報告第1号、学校教育ビジョンについてということで、私の就任と、任期のうちにどういうことを目指していくかということを中心としましたので、私の方から説明をさせていただきたいと思っております。

- 報告第1号 学校教育ビジョンについて
島谷教育長 資料に基づき説明

○島谷教育長 ご質問、ご意見、今後の施策の施行にあたって、忌憚のないご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

○山下委員 このダイジェスト版が皆さんに特に多く行き渡ると思っています。我々はこれを見てわかるんですが、ベースとして初めてこれを見た方がどれだけ理解できるかということ、唐突にこれが出ると難しいかなと思うんですが、もうすでに2月に出る予定なんですよ。今後、これの修正版としてお願したい部分として、ダイジェスト版を中心に意見を申し上げます。

まずプロジェクト1で気になったのは、これからはという部分で、この3つの新しい教室のイメージがあります。左下の絵は現在の教室を少し広くしたような感じに見えるんですが、この右上の部分について、いきなりこの絵が出てしまうと勘違いしてしまうんじゃないかと危惧されます。これだといわゆる学年とか、クラスの単位というものがなくなってしまうのかなというイメージを持ってしまうのかなと。自由なんですけど、これは絵としてはいきなり出ると気になる部分が残るかなというのが1点です。

そしてプロジェクト2の誰一人取り残さないの部分で、この資料は一般企業でいうとプレゼン資料になると思っておりますので、この教育総合支援センター移転・リニューアルという部分につ

いて、アピール力が弱いのかなという気はするんです。あくまでもリニューアルをするというのを表に出した方がいいのかなと。文章を逆に、「教育総合支援センターを全面リニューアルして、旧三木小学校に移転します。」とまずもってくる、そして「地域の人たちと一緒に学校に馴染めない子ども達が安心して過ごせる場所を作ります。さらに不登校の支援の拠点として機能を強化します。」のようにして、新しくなるんだなということが先にあった方がいいのかなというのが気になりましたので、今後もし改定ができるといいのかなと思いました。

そしてプロジェクト3で、「STEAM教育とは」となって、STEAM教育のそれぞれS・T・E・A・Mの絵があるわけですが、このダイジェスト版だけでは、これは何かと疑問が残るだけなんですよね。なので今後もし直すことがあれば、Sはサイエンス科学ですか説明をこの絵に少し加えてあげるだけで理解度が増すと思います。我々は重々存じておりますが、一般の方が見たときに、SとかTとか英語が書いてあるねと終わってしまうと、それまでそれより思考が進まなくなるので、この絵の下に少し日本語の説明を加えてあげる方がいいのかなというのがありました。

そしてプロジェクト4でちょっと気になったのが、学校・保護者間の連絡手段のデジタル化という部分で、アプリを導入してということ、非常にスムーズにいけるといいんですが、果たして保護者の方々のスマホ率というか、一部にももちろんガラケーの方もいらっしゃると思います。スマホが100%ではないと思いますので、スマホを持っていらっしゃらない保護者の方々に対してなにかしらの支援というか、もちろん今学校にあるデジタル端末を家に持ち帰るということも考えていただけたらと思いますし、そうであれば100%になるわけですから。あえてスマホを持っていらっしゃらない方々、これは経済的なものではないかもしれませんが、その方々に対して親御さんも、その子どもさんも肩身が狭い思いにならないような策がないのかなと少し危惧したわけでございます。

もうひとつ、最後のページのなぜ今、教育を変えるのか？のところ、教育長が来られたときからちょっと気になっていたことで、「これからは人と違うことが強みになる時代になります。」という言葉に対して、人と違えばいいのかなという部分に対して、その前提に悪意がないということがないといけないと思うんです。違ってもいい中で悪意がある、もしくは自分だけでいい、総合判断ができない中ですが、人と違うことという部分での悪意がないという前提条件をどこかに言葉で残せないかと以前から気にしておりました。もちろん人と違うということは新しい発想などにつながっていくんですが、まだ経験の浅い児童生徒に対して、悪意がない中での自分の考えることという表現を、今後どこかに加えられたらいいかなという気はしております。以上です。

○島谷教育長 貴重なご意見をありがとうございます。本当はこういったご意見をいただいて出せたらよかったんですが、本当に申し訳ございません。今、いただいたご意見は詳細版の方には汎用していきたいと思っております。

まずイメージ図なんですけど、現実路線だけを走って絵を描くのかどうかすごく迷いました。右上の方は図書館をイメージしておりまして、東谷口小学校はこれにちょっと近い状況になっておりますけれども、教室だけでずっと黒板を使ってやるというよりは、子どもの発想力とか、自由に動いているような情報端末や情報資料を使って学習の幅を広げていくという意味で、空間というのも教室にとらわれずに、いろんな場所でやっていくということも含めてイメージをし

たかったので、確かにこういう説明がないとなんだらうというところはあるかもしれませんが、そういうイメージで絵を作っているというところでございます。

教育総合支援センターのリニューアルの件は、確かにおっしゃる通りだなと思いました。まず今ののぞみ教室を移すということを先にやって、不登校の支援拠点としての機能強化というのは、これから来年度1年間かけて構想を練って行って、そしてその次の4月から一気にスタートというそういう段取りを考えているので、時系列でいってしまっただけという表現になっているところではあります。

STEAMに関しては、私も出来上がってそうだなと思いました。それは詳細版の方に入れていきたいと思っております。今後、外向けにこのロゴを使うときは日本語で科学とか、美術とかを入れていきたいなと思っております。

連絡手段のデジタル化に関しては、私も保護者として東京ですべてこのアプリを小学校で使っていたというのと、横浜で導入したときも同じ議論がやはりあったんですね。持っていないご家庭とかアプリを入れたくないとか、いろいろなお考えが保護者の方によってはあるという状況に関しては、そのときはギガ端末がなかったので、紙と併用をしていました。その子達に渡すというよりは、紙がいい人はここから取って行ってくださいと、そういったやり方をしたりですとか、ギガ端末が今はあるので、そのままギガ端末を使うことの方が現実的にはいいのかなと思いますけれども、スマホで操作ができない、またはやりたくないというご家庭の配慮というのは当然考えていかないといけないところですので、そこは運用の面で配慮していきたいと考えております。

裏面の人と違うことですが、確かにおっしゃる通りでして、社会的規範とか人に迷惑をかけないとか、社会でいろんな人と生きていく上で必要なことは当然あって、その上でということではもちろんあるんですけども、表現をどうしようか悩ましいところではあります。検討させていただきたいと思っております。ここで申し上げたいのは、平均点より何点上とか、偏差値で60、70がいいという、同じような能力を伸ばしていくことだと社会では通用しないという時代になっていく、自分の強みや個性を出せるというような世界になっていくので、そういう人と違うということを強みにしてやっていこうという趣旨で書いている文章になっておりますが、少し考えてみたいと思っております。

○山下委員 絵の件ですが、今説明をいただいて非常によくわかりました。例えば絵のすみっこに図書館等とか、クラスを広げてとか、説明が少し入るだけで理解があると思うので、今後、この図を使うときは説明をちょっと入れるとわかり良いかなと思いました。

人と違うことの文について、非常に強みでいいと思うんですが、子ども達でまだ経験が浅い中で、善悪ではないかもしれませんが、その辺の判断力がまだ乏しい中で、違えばいいのかなという部分にどこか説明があると有難いなと思いました。以上です。

○島谷教育長 他、いかがでしょうか。

○篠原委員 まず学びをかえるプロジェクトで、これが成功すればほとんど教育改革で変わったみたいなものなんですけど、一番ここが難しいところだろうなと私も思います。特に教員の意識改革を、なかなか理念ではわかっていても、具体的にどう変わるんだということを見せさせていただかないとなかなか変わらないんです。学びを変えていくための学校伴走支援を実施すると。大変有難いです。具体的に教職大学院と連携して支援プログラムを作ると書いてあるん

ですが、例えばどういう大学院とやるのか。それが具体的にはどういふかたちで反映されるのか。施策3のところモデル校を小中1校指定すると書いてありますけれども、このところをスムーズにやっていただかないと、教員の中でまた多忙感が出てきて、また何か新しいことをさせられるとマイナスイメージになってしまったらよくないので、そのところまず具体的にどういふことをやるのかお聞きしたいです。

2点目は、市内の教職員の学び合いネットワークを作ると。これは前回も山下委員から、ある特定の学校で特定の教員が一生懸命やっていると、だけどその教員が異動したらその学校は具体的な活動がうまくいなくなつたという事例もお聞きしました。この学び合いネットワークは教育総合支援センターが中心となつていくのかなと思いますけれども、これは日常的にやらないと意味がないので、週に何回か集まつてそういったネットワークをきちんと構築できるような中核教員をまず育ててほしいと思うわけです。明らかに従来とは学校のイメージを変えないといけないという意識を教職員に浸透させられるような取組みが絶対にあります。そこが非常に大きなハードルだと感じております。

3点目は、施策4のごく小規模校での遠隔協働授業です。これも先ほど言った通りで、年に何度かやるというイベントではだめなんです。例えばある単元はずっと毎回やるとか、続けていかないとあまり意味がないので、小規模校のA校とB校が同じ学校みたいなイメージで、ずっとできるようなネットワークシステムを構築してもらえないかと思います。そうすれば今度はオンラインではなくて、実際にお互いの学校を行き来してもいいと思いますし、そういうことから将来的には同じような中学校の校区の学校が固まり合つてやることによって、将来的には同じ学校になつていくと。要するに何が言いたいかといいますと、なんでもかんでもイベントとしてしまつたよではだめなんです。これが我々の日常で、こういうことをするのが当たり前なんだなという意識改革をしないとなかなか変わらないんだということをまずお話しさせていただきました。これは非常に大変だと思います。

それに伴つて施策8、学校の業務削減、働き方改革の推進です。これは教育長さんがご先導でずっとやつていらつしゃつたということで、よくお分かりだと思つていますが、施策というのビルドばかりなんです。スクラップしないんです。あれもこれも大事で、でも新しくやらないといけないことは私の現職のときからもいっぱいあります。コロナ禍によつていろんな見直しをしてきたと思つていますが、もっと進めないとい溜まるばかりです。例えば必要のない会議ですとか、今までやつていたからというものがものすごくあるので、それをこの機会に大きくスクラップしてほしいです。新しいことをどんどん入れていくと、職員の中にもものすごく負担感が増えます。職員を疲れさせてしまつたらこういう改革はできませんので、教員の生の声をぜひ聞いてほしいです。業務改善がされないとなかなか新しいことが入つてきません。そのため人を入れます。人を雇うためにお金がいります。そうなつてくると行政当局として、やはり国の基準は決まっていますので、県も35人学級を増やすと今始めましたが、市のレベルでも市長は教育が大事だと盛んにおつしゃつていますので、これは人を入れて解決する問題ではないかもしれませんが、現場としてはものすごく大きいわけですね。そういうところでも市長にお話していただきながら、もっと教員の人材、教員そのものでなくても、教員をカバーする人材でもいいので、どんどん増やしていただけないかというお願いであります。

それから来年度から始まるコミュニティスクールのところですが、4月に始まるといつていま

すけれども、私もまちづくりの役員をしていますが、全然浸透されていません。全小中学校がコミュニティスクールに移行すると、まちづくりは学校運営協議会を開かなければいけないということは、私は頭では理解しておりますけれども、ほとんどの方は何の話だというのが現状です。なのでそのところの周知徹底をこの3カ月の間で、特に教育委員会の方から各まちづくりの方へ、学校運営協議会のときにこういうことで具体的にこのようなお願いをしないといけないので、ぜひ共にやっていただけませんかみたいな働きかけがないと、単に地域の意見がいるという程度で終わってしまいます。こちらに書いてあるように地域の力を活かして地域とともに子どもを育てる環境づくりですね。そういうことも踏まえて、教育講演会や広報での周知と書いてありますが、行政としていろいろと周知をしましたということはわかるんですが、実際のところどう浸透したのかとなってくると、その検証が不完全になる場合が往々にしてあるわけです。ですからコミュニティスクールに移行するこの3カ月の間に、地域に対してまず周知をしておかないといけないと思いますし、そして地域の役員の方とか、まちづくりの方を集めた説明会みたいなものもしていただかないと、一体何をやるんだとなってしまう可能性がありますので、コミュニティスクールに移行していくための手立てをぜひとっていただけないかとお願いをしたいと思っています。以上です。

○島谷教育長 貴重なご意見をありがとうございます。篠原委員がおっしゃる通り、1番の学びを変えられるということができれば、いろんな教育課題が解決すると思っておりますが、本当にハードルが高い、けどやっていきたいというところで1番目に掲げさせていただきました。年末に各学校の主任級の先生たちを集めて、この新しい学びに向けてということで研修をしているんですが、理念は誰も反対しない、むしろやっていきたいと先生たちも思っているんですが、具体的にどうやったらいいのかわからないというところを、これから研修などでも教えてほしいという話がありましたので、実際にその日の研修も、個別最適でこういうやり方がひとつ例としてあるというのを、実際にこのクロムブックを持ち込んでみんなで作ったんですね。やはりそういうイメージがつくと、こういうふうにするんだと一歩踏み出せるきっかけにもなると思いますし、今まで先進校視察もいくつかやってきましたけど、行った教員はイメージがつくので実際やってみようというやり始めるんですね。やっていくと先生たちは子ども達のために如何様にも知恵を使っていくので、1回やると自分の学級の子も達だったらもう少しここはこうした方がいいと創意工夫をどんどん重ねていって発展していくので、やはり1回やってみようという1歩目の背中を押すためのきっかけ作りというのを、先進校に連れていくのもそうですし、研修を実地型でやっていくのもそうですし、たくさんやっていかないといけないと思っております。教職大学院との連携は実は福井大学との連携を考えておまして、福井大学教職大学院はフラッグシップ大学、全国に4つしかないところのトップオブトップが福井大学になっておりますけれども、地理的にも近いということもありますので、行き来ができるような距離で福井大学との連携をこれからやっていきたいというところで、今大学側と話をしているところとなっております。

KAGA・ICT スクールの指定は、学校で具体的にこう使うともっと変わっていくというノウハウがある専門的な人材を充ててあるんですが、そういった方を入れていって伴走支援をしていくことを考えておりますので、具体的にやってみせていくということを意識して一つ目の学びをかえるということをやりたいと思っています。

ネットワークもすごく大事で、加賀市内の学校は単級で1学年1学級という学校がほとんどで、8割9割そういう状況なので、同じ進度で市内で進んでいるけれども、仲間が校内にはいないというような状況になっているので、横をどうにかつなげるような仕組みを作りたいと思っていて、今でもグーグルクラスルームでイントラネットの中で結構個別最適をやっている先生同士やりとりを始めてはいるんですけども、そういうイントラの空間とリアルで会えるという横のつながりをしっかり保てるようなネットワーク構築をやっていきたくて思っております。遠隔協働に関してはおっしゃる通りで、イベントでやってもなんの意味もないので、毎日なんでもいいからつなげるとか、それには環境だと思っていて、実は小規模校には今年度中に機材を入れるんですけども、今教室にあるものではなくて85インチくらいのかかなり大きいものを入れます。要は入れて臨場感が溢れて対話で人と話しているような感覚にならないとたぶん使っていないと思うんです。なのでそういったICTの機器支援みたいところ、スムーズにカメラがつながられるとか、360度カメラを入れて喋っている子ども達を投影していくとか、そういうテクノロジーの力もしっかり借りながら、つなげたくなるような環境の整備を教育委員会としてはしっかりとやっていって、あとは学校で頑張らなければならないところもありますけれども、そういうところは双方でやっていきたくてというふうに思っております。

働き方改革が一番効くのがスクラップだと思っております。いろいろと積み上げてきていますけれども、優先順位というものをしっかりつけていかないといけないので、学校のカリキュラムマネジメントの世界で解決できる話ではあったりするんですけども、やはりなかなか学校としてはいろんな周囲のプレッシャーもあったりとか、判断しきれないところがあるかと思っておりますので、その辺は市として全体的に方針を出せるものは出していきたくて思っていますし、スクラップは特に注力してやっていきたくてですし、人材確保ももちろんそうなんですけれども、働き方改革をしっかりとやっていきたくて思っております。

コミュニティスクールは地道な働きかけといいますか、一旦座組を組んでそのあと生きたものになるかというのが大事になってくると思うので、その辺りは地道に広報ですとか、やっていかないといけないとご意見を改めて頂戴して認識をしたところなので、頑張っていきたいと思っております。ありがとうございます。

他、ございませんか。

○山下委員 小規模校の遠隔協働授業を進めていくにあたって、各学校の授業時間のずれがあるんじゃないかなと思うんですが、その辺の調整はできるんでしょうか。

○島谷教育長 平塚次長、お願いします。

○平塚次長 秋にへき地複式教育の研究大会がありまして、そこでも南郷小学校と東谷口小学校で試行的にというか先進的にやってみたんですが、そのあたり市内の小中学校の時間割については5分10分の話なので微調整はできるかなとは思っています。こういうことができるようになれば極小規模同士での遠隔授業だけではなくて、遠く離れた学校との交流学习とか、もっといえば海外の学校、台湾やシンガポールなど加賀市が交流を深めている学校との授業交流なんかもできるのではないかと、そういうところにも発展させていきたいということも思っております。時間割の調整等は、市内の学校の極小規模同士の授業については問題ないというふうに思っております。

○山下委員 今篠原委員がおっしゃった、イベントではなくて、例えば1学期はこの学校とこ

の授業があるとわかれば、もうその学校自体が授業時間を併せる必要があると思うんですね。それにとりかかっていたいただいた方がいいのかなど。もう4月からスタートするならそういった構築をもうそろそろ考えていく必要があるのかなと思いましたので、意見をさせていただきました。

もうひとつ働き方改革の部分で、スクラップで削っても削ってもどうしても削れない部分があったり、昨日もこのデータがあがってきたのが8時過ぎでしたので、どうしても先生方がやらなければならない、そのために時間外が生じるときが必ずあると思うんです。そういった先生方に対して特別勤務手当等々の構築が可能なかということ、今は不可能かと思いますが、検討ができるものなのかどうなのかという部分をお聞きしたいです。

○**島谷教育長** 過勤手当に関しては、今教職員給与は国が3分の1、県が3分の2出している状況ですけれども、その給与費というのが時間外も含めた概念で出されているところがありまして、超勤として上乘せも含めた本給になっているので、別の意味合いが必要かなとは思いません。結果、本給とかぶっていくということになっていくので、制度上テクニカルに考えると、ちょっと別の理由付けが必要になっていくのかなという気はするんですが。

○**山下委員** 他校同士の先生方の協働研究による何かに対しての報奨金とか。

○**島谷教育長** 別の理由付けが必要ですね。日本全国どこの教員も同じ条件でやっている中、同じことをやっているのにこっちの市では出ている、こっちの市では出ないという条件になってしまうところがあるので、特別にこういう仕事がありますと、そこに報償というか謝金というか、別の支給を考えないと今の教職員給与体系だと難しいかなと思います。

○**山下委員** 今、加賀市がやろうとしているICT関係については、どうしても前向きな先生とそうなれない先生と、テクニカル的な部分もちろんあるでしょうけど、やはり温度差がどうしても生じている部分がありますので、その辺に対してなにかしら手当ができる等、待遇があるといいのかなという、一般企業的な考えにするとという意見でございます。

○**島谷教育長** 他、ございませんか。

○**佐野委員** 単純にこれが家に届いたとして見た場合、こういう政策をするんだと思って見たんですが、裏を見ると発達障害の子もいたり、不登校の子もいたりちょっと不安にはなるんです。不登校の子に関しては教育総合支援センター等でサポートしていただけるのはわかるんですが、あとのところはどうなんだろうと単純に思いました。このあとこういうのはこうしますよというのがちょっとあるといいのかなと。

あといろいろとする上でももちろん検証してまたさらにというのはあると思うんですが、その中でやはり大人だけで先生方の満足で終わらないように、子ども達の意見とか、本当に小さな声ですけど、そういう声を常に拾い上げて検証をしていただきたいです。なかなかどうだったと聞くのも難しいし、自分のどうだったという意見を直接先生に言うのも難しいですけど、こちら辺は一番子どもの声を聞いてほしいなというのは思います。

○**島谷教育長** ありがとうございます。子どもの多様化の図に関しては、今本当におっしゃる通りだなと思いつつながら、学びを変えろという一斉授業からの脱却というところが何よりもポイントになるんですけれども、IQの高い子が今もっとやりたいしできるのに、一定のラインで抑えられているところも救っていくことができると思っておりますし、発達障害の可能性のある子どもというのが、子どもの状況にももちろんよるんですけれども、みんなできっちり

座って集団で一斉に何かをやるのが特性上合わない子も救える道があるということも個別最適のひとつの手段でもあったりしますし、家にある本が少ない子どもは、これは少しわかりづらいんですけども、家庭の物価的資本の経済力みたいなところと本の冊数というのはすごく相関があると言われていたところで、家庭の経済力が学力の相関に結びついている現状が今でもあるという状況を、どうにか公教育でしっかりその差を埋められるように頑張っていこうという話なんですけど、確かに今説明が足りないなと感じました。これからビジョンの広報も始まっていますが、これを見てどうすれば解消できるのかというところも併せて説明できるようにしていきたいなと思いました。本当に貴重なご意見をありがとうございます。

子どもの意見を拾い上げてというのは我々も絶対にやっていきたいと思っていますので、客観的にとる数字と子どもがどう考えているのかというところは、一緒に並行して見ていきたいと思っていますし、子どもの SOS みたいなこととか、子どもが今どういう状況なのかというところは別のスキームを作っていきたいなと思っていますので、子どもの発信というところは本当にこまめに捉えられるようにやっていきたいと思っています。

他、ございませんか。

○新滝委員 昨日、資料を見て思ったことをメモしたんですが、私が思っていた疑問点というのは、先生のスキルとか、対応策はどうとられるのかなとか、公立の学校は先生の異動というのがつきもので他市からの異動もあるので、それを継続させていくというのは、やはり強いリーダーシップがないと継続はできないのでどうされるのかと。でも今教育長のご説明を聞くと、もうすでにいろいろな研修会などをされているということで納得しました。

それからこれからは人と違うことが強みになるというフレーズはすごく良いんですが、人と違わないといけないのかというのがすごくしんどい子がいると思うんです。本当に世の中には普通の優等生がいっぱいいて、この一面を見ても手のかかる子にすごく手厚くなっているんですけど、学級の中には普通に過ごせなくても勉強したいのに、いろいろお世話をさせられているとか、そういう子はたくさんいるんです。優等生だからゆえに我慢していることがたくさんあるので、その手厚さというのはみんな均等にしてほしいなというのは思いました。だから人と違うことを伸ばすというフレーズと併せて、人と違うことを受け入れる子たちになってほしいなと思いました。

○島谷教育長 ありがとうございます。やはり紙面上だけではなかなかお伝えしきれない部分がたくさんあると今ご意見をお聞きして感じましたし、今後の広報でもしっかり効かせていきたいなと思いました。今のやり方がすごく合っている子もいるということも含めて、いろんな子ども達がいるとしっかり捉えて、とにかくひとり残らず取りこぼさないというところで、学びのスタイルの変革をやっていかないといけないなというところを改めて感じました。今すでに個別最適の学びを頑張っている小学校もいっぱい出てきているんですけども、本当にトライアンドエラーで、もうちょっとこうやってやらないとこの子は救えないとか、こっちは層は伸びるんだけどこっちはというのはいっぱい出てくるんですね。それでも一斉授業よりは確実に子ども達が伸びていくというところが、先生たちも実感しながら頑張っているところなので、なかなか一気に完璧な姿は見せられないかもしれないですけども、その辺りは説明しながら進んでいきたいなと思いました。

他、ございませんか。

○山下委員 ウェルビーイングであったりインクルーシブであったり、最近出た言葉というのが結構出てくるんですね。どこかにまとめて注釈みたいなものがあるといいのかなと思います。

それと個別のことですけれども、コンピュータクラブハウス加賀に通いづらい子ども達も通うことができるよう、市内をミニバス等を循環となっているんですが、ミニバスを回すことが果たしてつながるのかなという疑問があります。まずコンピュータクラブハウス加賀に興味を持っていただくことが大事だと思いますし、ミニバスを回したからじゃあ行こうかというのではないと思いますし、ミニバスを回すということはそれだけ経費もかかるでしょうし、であれば今ののりあい号の補助券を出すとか、そういう方が現状あるものを使えると思います。ここだけ具体的に出ていますが、どうかなという疑問としてあげさせていただきます。

○島谷教育長 コンピュータクラブハウス加賀に関しては一部の利用にとどまっているという課題は受け止めておまして、ミニバスはほんとに一方策に過ぎなくて、そもそも認知度がまだまだだということも感じておりますので、総合的に底上げしてみんなが使える空間になるように、その辺は全体的にこれから考えていかないといけないと思っております。

○篠原委員 コンピュータクラブハウス加賀に関連して、実態を教えてほしいんですが、コンピュータクラブハウスは大聖寺にありますよね。例えば一番近い大聖寺地区からは何人くらい来ているのか。他地区の方で自分も積極的に勉強したいという意欲のある方だったら、保護者の方が連れてきてくださるということがいっぱいありますよね。これは習い事でもないですが、そのようなレベルで保護者は捉えているんだろうと感じているわけです。大聖寺で近いから利用率が高いんだとなればバスをまわすのは意味があるんですが、他地区と利用者の割合があまり変わらないなら別にバスをまわさなくてもいいんじゃないかと個人的には思っています。そこにお金を使うよりも他のところに使ってほしいと思っています。コンピュータクラブハウスにたくさんの方が来ていただくのは大賛成なんですけれども、お金の使い方というのがあるので、特定の方に特定の便宜を図ることよりも、やはり加賀市全体の教育の底上げになる、あるいはプログラミングのための教育を続けたい、推進したいということであれば、そういうことに対するインフラ的なものにお金を使うことの方が効果的だと思います。実態がもしわかればお願いいたします。

○島谷教育長 上出課長、お願いします。

○上出課長 具体的な数字は今お出しできないんですけれども、現状としてはやはり大聖寺地区の子が多いと聞いています。その他の地区の子どもについては保護者の方の送迎でいらっしゃる方が多いです。送迎がないから行きにくいとか、行けないということも聞いております。それで出張コンピュータクラブハウスを行なうと去年お伝えしたかと思うんですが、そこでのアンケートでは行ってみたいけれども、山中ですとか動橋、山代はやはり、送ってもらわないといけない、親の送迎がなかなか望めないというようなことは、少ないアンケートですが、そういうものはありました。今年になりまして、いらっしゃる方についてどこの地区から来たとかの集計を始めておりますので、次回にでも実態をお出しできるようにしたいと思います。

○篠原委員 ぜひ利用者の方のニーズをきちんと掴まえていただきたいと思います。

○島谷教育長 ありがとうございます。他、ございませんか。よろしいですか。

また進捗状況等々につきましてご報告したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

では報告第2号、令和4年度 小・中学校卒業式の日程について平塚次長お願いいたします。

- 報告第2号 令和4年度 小・中学校卒業式の日程について
平塚次長 資料に基づき説明

○島谷教育長 この件について何かご意見、ご質問ございませんか。よろしいですか。

第1号の関係で、今後の予定について補足させていただきます。今後、今いただいたご意見を踏まえて修正作業に入らせていただきまして、13日の金曜日の教育民生委員会でご報告して、そのあとホームページにアップをしたいというふうに考えております。

それではその他ということは何がございますか。よろしいですか。

では次回教育委員会定例会日程について小茂出課長お願いいたします。

- 次回教育委員会定例会日程について
小茂出課長 説明

○島谷教育長 それでは2月28日火曜日、10時からということで予定に入れておいてください。

それでは以上で第1回教育委員会定例会を閉会いたします。

御苦労さまでした。

以上、会議の顛末を記載し、会議録を作成する。